

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

5期—6号



2002.12.15

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01
President's Message / Masaru MAENO

2002年次 第3回拡大理事会報告(10/12)／山田幸正 02
Reports on the 3rd Meeting of the Executive Board, 2002
Yukimasa YAMADA

<研究会報告> 「飛鳥時代の庭」報告・見学会／杉尾伸太郎 05
"Gardens of Asuka Period" — Scientific Reports and Excursion —
Shintaro SUGIO

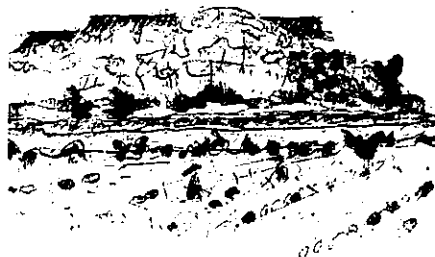
<国際専門分科委員会出席報告> 木の委員会報告／伊藤延男・他 06
Report on the Annual Meeting of the Wood Committee
Nobuo ITO / Yasuhiro WATANABE / Tomoko HONDA

アガ・カーン文化トラストによる歴史都市サポート・プログラムについて 08
山下王世
The Historic Cities Support Program of the Aga Khan Trust for Culture
Kimiyo YAMASHITA

お知らせ／前野まさる 09
Announcement / Masaru MAENO

日誌／事務局 10
Diary

韓国・慶州
イラスト／前野まさる(以下すべて)



はじめに
前野まさる



今年は第13回のイコモス総会が年も押し迫った12月末にスペインのマドリッドで開催されることになり、日本からは10人余りの方が参加される事になりました。役員選挙もあり忙しい総会になりそうです。2003年にも引き続き第14回の総会がジンバブエである由。スムーズにことが運ぶことを願っています。

国内でも2003年は、日本イコモスの国際的活動も始まり、忙しい年になりそうです。第5小委員会の日本イコモスとブルガリア・イコモスの共同事業のプロヴェディフ歴史的建築の保存修理事業も具体的な活動が始まるでしょうし、また、アジアの木造建築の交流事業を企画中の委員もおられ、これらの事業が進展することを心より願っております。

例年事務局として心を痛めていることに、会費の滞納があります。皆さんはそれぞれお忙しいお仕事をお持ちで、つついとお忘れになることと思いますが、もし多くの方が滞納されますと、その方々の本部上納金を国内委員会の経費で立て替えることとなります。これを防止するためには自動引き落としなどの方策も考えざるを得ません。事情お察しの上ご協力下さいますようお願い申し上げます。

2002年次 第3回理事会(拡大理事会)報告

2002年次第3回理事会(拡大理事会)が去る10月12日(土曜日)東京上野の東京文化会館4階小会議室No.1で午後1時半から午後5時まで開催された。出席者は、委員長:前野まさる、顧問:伊藤延男、石井 昭、理事:上野邦一・岡田保良・杉尾伸太郎・田原幸夫・日高健一郎・松本修自・宗田好史・矢野和之・山田幸正、本部執行委員:西村幸夫の各氏で、報告事項・審議事項は以下の通りであった。

報告事項

1) 第13回 ICOMOS 総会について

本部からの NEWS LETTER や INFORMATION 誌などですでに周知の通り、第13回 ICOMOS 総会は、当初のジンバブエからスペイン・マドリッドに開催地を変更して、来る12月1日から5日にかけて行なわれることとなった。総会の直前、11月27日～29日にはセビリアでビューロー会議、執行委員会、諮問委員会が開かれる。また、総会と併行して、世界遺産のための戦略に関して6つのテーマで国際シンポジウムが開催される予定である(DOCUMENTATION, PROTECTION, CONSERVATION, MONITORING, TRAINING, PUBLIC AWARENESS)。わが日本イコモス国内委員会からは、以下の13名の方々が参加される予定である; 伊藤延男、大河直躬、佐々波秀彦、西村幸夫、松本修自、杉尾伸太郎、杉尾邦江、西浦忠輝、岸本雅敏、小野 昭、稲葉信子、日高健一郎、前野まさる(順不同・敬称略)。このうち、大河直躬、杉尾邦江の両氏は研究発表される予定である。以上の通り、前野委員長より報告された。

2) NPO 法人化について

これまで事務局が中心になって検討を進めてきたNPO法人化について、矢野理事より、提出文書にもとづいて以下の通り報告があった。NPO登録によって、主に企業からの寄付や委託調査などを受けやすくし、会員活動の機会の拡大ばかりでなく、日本イコモス国内委員会としての活動の活性

化を期待していたが、現行の特定非営利活動促進法(NPO法)においては、日本イコモス国内委員会として以下のような問題点があることが判明した。

(1) 会員の規定について

現行NPO法は、すべての人に門戸を開く、すなわち門外漢でも入会希望があれば受け入れることが原則とされる。

(2) イコモス本部への送金について

NPO法では上納金的なことは認められていない。特定の団体・組織の利益に結びつく行為はできないことになっている。つまり、年会費から約半分、一人あたり40ドルを毎年パリ本部に送金していることが、法的に抵触する。これらの問題をかわす方法はないとはいえないが、規約を根本的にいじることとなり、また法の裏をかくような行為になりかねず、好ましい方法ではない。したがって、当面は現状通りとし、やがてNPO法が改正されて上記の問題がクリアされる時点まで登録は先送りすることが適当と判断した。

3) 「木」の専門委員会および国際シンポジウムについて

去る9月25日から29日まで、ロシア・ケネゼロで開催された「木」のイコモス国際学術専門委員会による国際シンポジウム ICOMOS International Wood Committee Annual Symposium, Kargol, Kenozero National Park について、提出文書に基づいて、以下のように伊藤顧問より報告された。ケネゼロ国立公園内の建造物などの見学会の後、木の委員会は意見交換を行ない、さらなる比較研究のうえで、この地域の文化遺産を世界遺産の暫定リストにのせることを勧告する旨の委員会決議が採択された。

4) 第5小委員会(プロヴェディフ旧市街保存事業協力班)の近況

石井主査から以下のように報告された。

ユネスコ・ミッション(委員6名)による現地での調査・協議(6月24～30日)とその後の共同作業とに基づく「事業計画書」"Conservation of Monuments in the Ancient Plovdiv Reserve"(UNESCO)が9月末に完成した。ユネスコと日本外務省との正式協議でこれが承認されJapan Trust Fundからの予算配分額が確定すれば、2年余にわたって



我々が準備した待望の事業が軌道に乗ることになる。

【事業計画】 未承認ながら計画の要点を紹介すれば次の通り。(1) 実施時期：2002年10月から3年間。(2) 関与機関：ブルガリア政府文化省、国立文化財研究所プロヴディフ支所（国）、プロヴディフ市庁、プロヴディフ旧市街管理事務所（市）、日本ブルガリア両国イコモス国内委員会（NGO）、その他。(3) 対象と予算請求額（単位米ドル）：Georgy Klianty's House 等3件（4棟）の本格修理に767,724、Nicola Nedkovich's House 等5件（5棟）の応急修理に100,000、Bulgarian-Japanese ICOMOS Joint Working Group の活動経費に117,000合計984,724米ドル。これにユネスコのサポートコスト（13%）を加算すると1,112,738米ドル。

【第5小委】 前回拡大理事会以降、第5小委員会は計3回の会議を開いた。(1) 第6回（7月8日）。帰国した石井・麓両委員からユネスコ・ミッションの現地における調査や会議の様子が報告された。次いで、事業計画書の編集責任者たる A.Lemaistre（ユネスコ）・D.Rodwell（英国）両委員のもとへ提出すべきメモ、データ、チャートなどについて相談した。(2) 第7回（9月7日）。T.Krestev 委員（ブルガリア、協力 H.Staneva 女史）と石井委員とが協議を重ねて完成した予算表が配布され、交信記録にそって経緯が説明された。ユネスコ関連議題は以上で一まず終結。次いで、事業が実施に移されたならば ICOMOS Joint W.G. が最初に取り組むべき課題—例えば Guideline for Conservation Works, Tasks of Conservation Architect 等の文書化—について検討した。(3) 第8回（10月1日）。Joint W.G. の課題について継続審議した。10月8日には、石井主査から T. Krestev 主査に宛て、Joint W.G. の運営方針、設計監理者・施工業者の選定方法、などに関して当方の意見を伝え先方の意見を問うメールを送った。

5) INFORMATION誌第5期第5号の発行について

INFORMATION誌第5期第5号は9月30日付けで発行された。奈良での平城宮跡をめぐる見学会・研究会、インド・グジャラート震災調査についての研究会などの報告に加えて、土の建築の専門家ウベール・ギヨ氏からの特別寄稿などが

主な内容となった。9月中の編集作業は前野委員長はじめ事務局によってなされた。以上の通り、山田理事より報告された。

6) 「飛鳥時代の庭」研究報告・見学会について

去る10月5日午後1時から5時まで、明日香村の奈良県立万葉文化館展示室Aにおいて、ジャパン・イフラと日本イコモス国内委員会の歴史的庭園及び文化的景観国際専門委員会との共催で、標記の研究会および見学会が開催された。明日香村教育委員会の相原氏、奈良県立橿原考古学研究所の卜部氏、国際日本文化研究センターの白幡氏の各氏の研究発表があり、酒船石遺跡庭園遺構・飛鳥京跡苑池遺構において庭園見学会が行なわれた。以上の通り、文書にもとづいて、杉尾理事より報告された。

7) 江東区文化講座事業について

インフォメーション誌5期4号で報告したように、第2小委員会（出版協力・文化講座協力・他）の羽生主査を中心に進めてきた江東区古石場文化センターでの連続講演会事業は、10月3日の第10回をもって無事終了した。講演を担当された各会員からは講演謝礼金が本会に寄付された。以上の通り、前野委員長から報告された。



モーリッツブルグ城

審議事項

1) 新規入会者および退会者の承認

(1) 入会者 (個人会員)	現職	推薦者
高島忠平	佐賀女子短期大学 副学長・教授	前野まさる・矢野和之
石崎武志	東京文化財研究所・保存科学部物理研究室長	斎藤英俊・西浦忠輝
山内和也	シルクロード研究所 研究員	岡田保良・山田幸正
辻村国弘	TBS-L製作部 (世界遺産のドキュメンタリー制作)	前野まさる・矢野和之
土本俊和	信州大学工学部 教授	前野まさる・矢野和之
山下王世	マサチューセッツ工科大学AKPIA 研究員	西浦忠輝・岡田保良

(2) 退会者 (個人会員)	事由
横山浩一	8月12日に退会希望の書面を受領
都出比呂志	8月13日に退会希望の書面を受領
足立富士夫	6月4日ご逝去
佐原 真	7月10日ご逝去

これまでに上記6名の個人会員の入会申請があり、審議の結果、これを承認した。あわせて、上記4名の個人会員の退会も承認された。

顧問・理事から、入会時に本会の活動において希望する専門分野を確認すること、コスト面だけからの会員増には慎重であるべきであり、入会資格審査の基準等を見直すよう意見が出された。

2) 会費長期滞納者の処遇について(継続審議)

10月12日現在の滞納総額は670,000円となっている。会費の滞納者に対して、督促の手紙をこれまで計4回(5月、8月、9月、さらに前号インフォメーション誌の送付時)送った。その結果、3名の方から会費の納入があった。矢野理事より、以上のような報告があった。

この件について慎重に審議した結果、前回の拡大理事会で合意した通り、実施することとなった。

3) 社団法人日本ユネスコ協会連盟からの協力依頼について

標記の連盟では、現在、以下のような世界遺産に関する教育教材を作成する企画が進められている。

(1) 世界遺産を通し、歴史や自然、文化の多様性、そして環境問題など、子供たちが楽しく学び、考え、自分たちでできることを探すきっかけを作ることを目的とする教育副教材。対象は小学校高学年程度で、「総合的な学習の時間」に対応する教材を目指す。

(2) 世界遺産や環境問題に携わる専門家が企画の骨格を作成し、小学校の教員などが中心になって教材化する。冊子体とはせず、紙芝居形式とし、ホームページからの利用も可能にする。教材は一般公募の上、希望する学校・教育団体に無料配布する。

(3) 予算は大日本印刷(株)の社会貢献寄付を財源とする700万円。

日ユ協より相談を受けた西村本部執行委員は、以上のように報告し、さらに日本イコモス国内委員会として、第4小委員会(世界遺産条約関連問題研究班:稲葉主査)を中心に本教材の企画監修を引き受けてはどうかという提案があった。審議の結果、この提案を理事会として受諾することとした。

4) INFORMATION 誌第5期6号の発行計画について

次号のインフォメーション誌は、ロシア・ケネゼロにおける木の専門委員会の国際シンポジウム報告(伊藤顧問ほか)やプロヴディフ旧市街に関する特別寄稿(石井顧問)などを中心に、12月中旬の発行をめざすこととした。

5) 第13回ICOMOS総会における本部役員選挙について

ICOMOS規約では、一つの国内委員会に与えられている本部役員選挙に対する投票権は最大で18票であり、出席者1名につき最大5票まで委任状による代理投票が認めら



れている。また、総会開催の1ヶ月前までに投票人名簿と委任状をパリ本部に送付しなければならない。

投票人および委任状の選定方法について、石井顧問より前回役員選挙における経緯が説明され、同じ原則に基づいて今回も行なうことが合意された。すなわち、まず、総会役員選挙に出席する理事・会員の全員に各1票を与える（今回、総会出席者のうち、伊藤延男・小野 昭の両氏は都合で選挙を辞退されるため、11名参加・11票）。次に当理事会に出席している理事のうち、総会に出席しない理事名で委任状を作成する（7票）。以上のように実施された。

6) 平城宮跡と自動車道建設の問題について（継続審議）

平城宮跡の地下通過で計画されている京奈和自動車道建設について、前回理事会以降の動向が上野理事より述べられ、継続審議されていた日本イコモス国内委員会としての意見表明の原案が示された。

審議の結果、本件は世界遺産にかかわる問題であり、日本イコモス国内委員会として意見・懸念表明することは当然必要であるとの合意を得た。上野理事の原案をもとに、修辞・修文を行ない、前野委員長名で関係方面に提出することとした。

また、京都・宇治地区の世界遺産で周辺の文化的景観に問題が発生している旨、宗田理事より報告があり、この件について緊急に関西在住の理事を中心に現場視察を行ない、理事会にその結果報告を求めることとなった。

7) 2002年度第4回拡大理事会・日本イコモス国内委員会総会の開催日程について

マドリッドでのICOMOS総会が12月上旬に予定されているため、例年12月に開催してきた日本イコモス国内委員会の総会を2003年1月に延期することが、前野委員長より提案された。審議の結果、1月11日（土）に第4回拡大理事会、それに引き続き、2002年度総会を開催することとした。

（文責：山田）

歴史的庭園及び文化的景観国際分科会報告 「飛鳥時代の庭」 研究報告・見学会

杉尾 伸太郎

平成14年10月5日は晴天に恵まれ、飛鳥路を辿るにふさわしい日であった。新築の奈良県立万葉文化館は周辺の庭園も整い、多数の観光客が訪れているようである。

さて、この文化館の特別展示のない日は展示室を借りることができるため、見学会 現場に最も近い会場として利用した。ただし、残響がひどいのが難点であった。当日の主催はイコモスの当国際分科会であるが、共催でジャパンイフラ、協賛で社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会にお願いした。それぞれ費用・ボランティアの面でお世話になり、当日の司会と企画立案で協力頂いた独立行政法人奈良文化財研究所の小野健吉氏及び研究発表の3氏、また入場について便宜を図って頂いた明日香村等関係者の皆様には厚く御礼申し上げたい。

午後1時から大変嬉しい事には、坪井清足先生を初め41名の参加をみて、第1部の研究発表が行なわれた。

初めに「酒船石遺跡庭園遺構」として明日香村教育委員会の相原嘉之氏から、万葉文化館建設によって発見された亀形・小判形石造物を中心に湧水施設や酒船石丘陵の石垣等について短時間の詳細な報告が行なわれた。

次に「飛鳥京跡苑地遺構」について奈良県立榎原考古学研究所のト部行弘氏から飛鳥宮の近傍西北部の飛鳥川右岸の河岸段丘に依る大規模な苑池について1999年から本年までの3回にわたる調査結果について詳しく報告があった。

最後に「庭園の源流—飛鳥の事例から—」と題して国際日本文化研究センター白幡洋三郎氏から庭園の定義から酒船石遺跡等を祭祀場として扱うことに疑問を呈示した考え方を述べた。特に庭園の機能が観賞にとどまらず、祭祀、儀礼、饗宴、休養などさまざまなものがあることを主張した。

各発表の後、若干の質疑応答があったが時間が充分でなかったことが悔やまれた。さて、その後現場へ移ってその場での解説が行なわれたが、図面と対照して理解を深める事ができた。

これからは全く私見を述べさせて頂くとする。酒船石遺跡

庭園については飛鳥池への重要な水源である亀形・小判形石造物が雁鴨池と類似の機能を有するものと考え、酒船石そのものは水源地のさらに源として、水請に使われたのではないかと思う。即ち聖なる水を上流から流し京都の法然院の様に葉や砂で流路を確定したものと考えている。また、飛鳥京跡の苑地遺構について北池は飛鳥川を船曳のターミナル港と見、石材運搬や客人に水運を利用した運河が北池まで開削されていたものとする。このような考えを先生方に述べながら、暮れなずむまで現場に立ちつくしていたものであった。

なお、歴史的庭園及び文化的景観国際分科会としては今後もできるかぎり考古学・建築学など、各分科会の皆様の協力を得て、多くのイコモス会員が参加できる研究会・見学会・シンポジウムなどを開催して行きたいと考えているので会員各位のご支援をお願いする次第である。



酒船石遺跡庭園遺構



亀形・小判形石造物



見学風景

イコモス木の委員会出席報告

伊藤 延男・渡辺 保弘・本田 智子

われわれは3名は、この度表記委員会に出席しましたので、取りあえずその概略を下記のように報告します。

はじめに イコモスの国際特別学術委員会は、原則として年1回開催することになっているが、なるべく多数の参加を可能にするよう、オープンなシンポジウムの形式をとる。今回の木の委員会も最初のインフォメーションでは、「第13回歴史的木造建造物の保存に関する国際シンポジウム」という表現になっていたが、最終的なプログラムには「ICOMOS International Wood Committee Annual Symposium Kargapol, Kenozero National Park, September 25-29, 2002」と表記され、これまでと同様、いくつかの場所で建築を見学し、最後に短時間の意見交換を行なうという形式をとった。

国内的世話役 今回の世話役として情報を送ってくれたのは UNESCO Moscow であった。はじめは国際機関であるのかロシアの機関であるのか分からなかったが、正確に云うと、UNESCO Office for Armenia, Azerbaijan, Belarus, Georgia, the Republic of Moldova and the Russian Federation in Moscow、つまり旧ソ連地域を管轄するユネスコの機関で、実務の責任者はその Science and Ecology Division に属する Uli Graebener 氏（ドイツ人）であった。これは異例というべきことであるが、これには次項のような事情があるらしい。なお、ロシア側としては、ケネゼロ（オゼロが湖の意であるから“ケン湖”というべきか）国立公園事務所長 Elena F. Shatkovskaya さんをはじめ所員の皆さんが対応した。

ユネスコ機関主導の事情 ユネスコモスクワ事務所では、ケネゼロ国立公園内に木造建築学校、実際には4週間の建築技術者養成研修の新設を企画し、ユネスコの援助を得て実施している（らしい）。そこで併せてこの地域が“文化的景観”というカテゴリーで世界遺産になることを希望しているようであった。

参加者 参加者はリストによると、総勢36名で、これを国別によれば次の通りである。アルメニア1、イタリア2、英国5、カナダ1、キプロス1、スウェーデン1、スペイン1、日本3、ネ



パール1、ノルウェイ1、フィンランド2、ブルガリア1、米国1、ロシア専門家10+通訳1+写真家1=12、ユネスコ2

開催地と日程 開催地のケネゼロは、東経38度、北緯62度付近にある。即ちモスクワのほぼ真北で、サンクトペテルブルグ(60度)の東である。又世界遺産となっているキジの教会の真東160km程にも当たる。湖周辺は美しい森に囲まれ、多くの教会、礼拝堂が散在する。日程は前期のとおり平成14年9月25日より29日までで、実際の行程は以下の通りであった。

(渡辺は9月23日モスクワ到着、指定のホテル・ベオグラードに2泊、伊藤と本田は24日到着、同ホテルに1泊。)

9月25日(水) / 17:30専用バスでカルガポールへ向け出発。車中泊。

9月26日(木) / 夜中道に迷ったらしいこともあり、11:30ようやくカルガポール到着。

遅い朝食後12:30出発、悪路、フェリーで川を渡り、16:30目的地ケネゼロ国立公園に到着。夕食後、フィリッポフスカイア教会(17-19世紀)修理現場へ。方形1階の上に8角2階、更に上に8角尖塔。総高さ40mという。更に同地域内に直線的に配置された小形の教会(後墓地となる)と礼拝堂(19世紀)も見学。宿泊は研修宿泊施設、食事は同食堂。

9月27日(金) / 終日ボートに乗船、ケン湖周遊。セント・ニコラス礼拝堂、聖霊礼拝堂、“熊島”の礼拝堂、パラスケヴィア・ピアントツカイア礼拝堂、十字礼拝堂等見学。宿泊、食事は前日同様。夕食後、意見交換を行なう。

9月28日(土) / 朝ケネゼロ国立公園出発。昼カルガポール到着。ここはこの地方の中心地。午後に見学。1762年創建の寺院あり。但し1765年の大火により破壊。その後エカテリーナ2世が碁盤の目の都市計画を行い、寺院も再建・修理した。1810年建築の正教会は今内部を博物館としている。更に30km以上離れた村へ行き、18世紀の教会、19世紀の鐘楼を見学。

以上で見学をすべて終え、伊藤、本田、他2名は帰途の都合で車でニアンドマまで送ってもらい、夜行列車でモスクワへ。他の出席者は専用バスでモスクワへ。途中29日朝ボルガ川に近い地方都市に立ち寄り29日14:00 UNESCO Moscow Officeにて解散。

(伊藤、本田はバリのイコモス本部訪問、今回のシンポジウムの概略を報告すると共に本部図書室の資料を閲覧した。)

建造物の特徴、注目点

1. 建築は17世紀以降のものばかりで、そのうち年代の古いものは木造丸太校倉造りであるが、新しくなると角材積み上げ、板張り、柱形付きの構造になる。即ちノルウェイにおける構造と同一であるが、相違点もみられる。
2. 相違点は、基礎構造を欠いていて、最下の材を直接地面において土台としている。それ故家屋がひずみ、傾き易い。
3. デバイダーのような鋸引きを用いてひかり付けの線を出す。
4. 工具は見たところ斧(アックス)とセンだけで、ノルウェイに見られるヤリガンナ類は見なかった。材の継手は突きつけか簡単なホゾらしい。内部の12角ドーム的天井の工作も押っつけ仕事と見られる。
5. 材はマツ等の針葉樹で、用材は樹皮を剥ぎセンで整えるだけで、辺材を残している。
6. 寒冷地にかかわらず、カビ、コケ等の発生が見られ、用材の腐朽が思いの外早いようである。湖面に近く霧の発生が頻繁であるためかもしれない。また材に割裂が顕著で、目回りもあり、そこに水が侵入、破損を起こし易い。
7. 近年ノルウェイ等の修理が少しずつ行なわれているが、問題点もあるようだ。

委員会の決議 木の委員会は、意見交換の後レゾリューションを採択した。その内容は、この地域の価値の高さを認めながらも、なお比較研究を行なった上、世界遺産の暫定リストに載せることを勧めるというかなり自制的な内容であった。これは、美しくはあるが、森と湖が主体をなす広大な景色の中に僅かに素朴な教会と村落が点在するという風景であり、希少動植物もあまり顕在的でなく、教会建築もキジなどとの比較研究が必要である現実から考えれば、ほぼ妥当で、賛成して差し支えないものと考えられた。

付記:今回の会議には木の委員会事務局長ポーター氏が欠席であったが、旅行中機を見てミッシェルモア委員長と委員会の将来について話し合う機会があった。最近伊藤は過去の経緯から見て次は日本が事務局を引き受けることが順当と

考え、前野委員長、矢野理事とも意見の交換をしておいたので、その旨を申したところ、ミッシェルモア委員長も日本がやることを強く期待されていた。但し、役員交代は本年のマドリッド総会ではなく、1年後のジンバブエ総会とすることを事務局長と合意しているとのことであったので、実現するとしても1年後となる。

(文責:伊藤)



オーストラリア・デーヴィン

アガ・カーン文化トラストによる 歴史都市サポート・プログラムについて

The Historic Cities Support Program of the Aga Khan Trust for Culture

山下 王世

本報で紹介するアガ・カーン文化トラスト (Aga Khan Trust for Culture) は、我が国ではあまりとりあげられることがなく、それほど知られていないが、1988年にジュネーブ (スイス) に設立されて以来、特にイスラーム文化圏の建築・都市を対象とした保存・修復活動を活発に展開している。このトラストの設立者は、イスラームの一宗派、イスマーイール派の49代目イマーム、アガ・カーン4世である。設立者はイスラームの宗教指導者であるが、スイスで生まれ、ハーバード大学でイスラーム史を学んだ経歴をもち、とくにヨーロッパでは、実業家としても知られる人物である。

アガ・カーン4世の最大の功績は、アガ・カーン・デヴェロプメント・ネットワーク (Aga Khan Development Network, 以下 AKDN とする) の設立・運営で、標記トラストも、これに

属している。AKDNは、イスラーム文化圏の国々が共通に抱える医療・保健、経済、教育、都市開発、文化財保存などの問題に取り組む非営利団体である。設立当初、AKDNの活動の中心はアガ・カーンの一家にゆかりの深いインド、パキスタンであったが、その後1980年代半ばからはアラブ圏 (エジプト、シリアなど) に広がり、さらに1990年代には中央アジアへと拡大している。ちなみに、AKDNのなかで、アガ・カーン文化トラストのほかに建築分野に関連するものは、次の二つがある。第1に、イスラーム圏の優れた現代建築に授与されるアガ・カーン賞 (Aga Khan Award for Architecture, 1977年設立) である。3年に1度授与されるこの賞の審査員には、イスラーム文化圏が中心であるが各国の著名建築家が選ばれており、現代イスラーム建築分野では権威のある賞となっている。第2に、マサチューセッツ工科大学 (MIT)、ハーバード大学、両校に1979年に設立されたアガ・カーン・イスラーム建築プログラム (Aga Khan Program for Islamic Architecture) である。MITでは主として建築史、都市史、保存・修復理論、中東都市がかかえる現代的課題に関する研究、ハーバード大学ではイスラーム美術史・建築史の研究が行なわれている。

このようにAKDNには、建築に関する組織だけでも複数存在するが、それらの中でアガ・カーン4世が現在最も力を入れている活動が、アガ・カーン文化トラストによるものである。標記トラストでは、イタリア、スイス、スペイン等の欧米の専門家達が修復事業を統括しており、ムスリムのみによる宗教組織ではない。しかし、保存・修復活動の対象地域は、イスラーム文化圏に限定されている。アガ・カーン文化トラストの最も重要な活動は、1992年に始められた歴史都市サポート・プログラム (Historic Cities Support Program: HCSP) である。同プログラムは、イスラーム文化圏の建築・都市を対象とした保存・修復活動を積極的に展開している。その特徴は、地域に密着した保存活動を試みていることである。すなわち、ジュネーブ本部から派遣された建築家が修復技術を提供するとともに、現地に修復事務所を設立し、地域社会の現状にあった住民参加型の活動や、土着技術を保守するための教育活動に重点をおいている。

2002年で設立10年目をむかえる歴史都市サポート・プログラムは、これまでに次のようなプロジェクトを手がけてきた。



1. 北部パキスタン：Karimabad & Baltitの修復・保存プロジェクト（Baltit, Shigarの要塞など）1996年完成。Top Prize in the British Airways Tourism for Tomorrow Awardsを2000年10月に受賞
 2. ザンズィバル島（タンザニア）：旧診療所の修理。ストーン・タウンの保存・修復計画
 3. カイロ（エジプト）：アズハル公園プロジェクト
 4. サマルカンド（ウズベキスタン）：旧市街の保全総合計画
 5. モスタル（ボスニア）：旧市街の保全総合計画
 6. 北・西部シリア：アレppo城塞、マスマヤフ城塞、ラタキヤ近傍のサラーフ・アッディーン城塞の修復・保存
- 保存・修復に必要な諸費用は、アガ・カーン文化トラストの資金のほか、他機関からの援助によってまかなわれる。他機関には、Getty Grant Program, World Monuments Fund, The Ford Foundation, The Swiss, Swedish and Norwegian Bilateral Aid Organization, The World Bank などがある。

例としてザンズィバル島ストーン・タウン（2000年ユネスコ世界遺産登録）のプロジェクトをあげると、アガ・カーン文化トラストは、設立当初からストーンタウンの再生にかかわってきた。ムスリム商人が多く住むストーンタウンは、インドとのモンスーン貿易で栄えた街で、特に183年以降、その名の通り多くの石造建築が建設された。アガ・カーン文化トラストが修復を行った旧診療所は、1887-1929年にイスラーム派インド商人によって建設されたものである。現地での実際のプロジェクトの運営は、アガ・カーン文化トラストの現地事務所（Aga Khan Cultural Services, Zanzibar）、そしてStone Town Conservation and Development Authority (STCDA) との共同で行われている。資金については、The Ford Foundation、Sweden International Development Cooperation Agency (SIDA) などから援助を得ている。特に後者、すなわちSIDAは、2001年に第2期再生プロジェクト（期間：2年半）のため455,000ドル（約60,060,000円）を援助している。

アガ・カーン文化トラストの歴史都市サポート・プログラムは、10年余とまだ歴史は浅いが、その活動は欧米を中心に認知されはじめている。アフガニスタンの文化財保存においても、いち早く名乗りをあげており、今後、イスラーム文化圏の建築の保存・修復という分野で、アガ・カーン文化トラストは無視できない組織となるだろう。

お知らせ

●日本イコモス国内委員会2002年次総会

会員の皆様にお知らせいたします。日本イコモス国内委員会の規約に従い、本年次総会を下記の通り開催いたします。万障お繰り合わせの上ご出席ください。

日 時：2003年1月11日（土） 午後1時～3時

場 所：東京藝術大学 第5講義室（東京都台東区上野公園12-8）

議 事： 報告 1) 2002年次一般報告

2) 2002年次会計報告

3) 2002年次会計監査報告

審議 1) 新規入会者及び退会者の承認

2) 2003年次活動方針

3) 2003年次予算案

協議：1) 国際専門分科委員会活動への今後の対応

2) その他

総会に引き続き、同所において下記の通りシンポジウムを開催いたします。併せてぜひご出席ください。

●総会記念シンポジウム

このシンポジウムはイコモス会員以外にも公開いたしますので、主題に関心をお持ちの方々をお誘いください。

日 時：2003年1月11日（土） 午後3時半～6時半

場 所：東京藝術大学 第5講義室（東京都台東区上野公園12-8）

主 題：保存修復に関する教育

講 演：「世界の保存教育・啓発の現状」／稲葉信子氏

「保存修復研修の現状と展望」／工楽善通氏

討 論：出席者全員による意見交換

上記の年次総会とシンポジウムにつきましては、別便にて会員の皆様に案内状をお送りいたします。同封の葉書による出欠回答（総会を欠席される場合は委任状が必要です）をご提出くださるようお願い申し上げます。

（委員長 前野まさる）

日誌 事務局

(2002年9月1日～2002年11月18日)



2002年

- 9/7 日本イコモス国内委員会第5小委員会 (Ancient Plovdiv Project) 第7回会議を開催(文化財保存計画協会会議室)
- 9/9 国立国会図書館より<日本全国図書誌>2002 No.2391を受領
- 9/9 全国町並みゼミ第5回年の浦大会(2002/9/20-21於:広島県民文化センター・他)の案内を同実行委員会事務局より受領
- 9/13 (財)ユネスコ・アジア文化センターより、Promotion of the “Proclamation of Masterpieces of the Oral and Intangible Heritage of Humanity” — Final Report of the 2002 Regional Workshop for Cultural Personnel in Asia and the Pacific — 「[人類の口承および無形遺産の傑作宣言] アジア・太平洋地域普及会議」(東京 2002年3月)及び、National Workshop on the Documentation and Promotion of the Intangible Cultural Heritage in India — 「無形文化遺産記録保存巡回講師団派遣ワークショップ」 — (インド:2001年1月)の報告書を受領
- 9/25 World Megalithic Association(韓国)より “5th International Symposium on World Megalithic Culture and 2nd Megalithic Festival” (October30 ~ November 1/2002 ,Korea)の案内とパンフレットを受領
- 9/25 ICOMOS本部 (パリ)より、12月のマドリッド総会に各国内委員会の関係1~2 機関に招待状を出す事が可能なため、当該機関の連絡先を知らせてほしいとのメールを受領、前野委員長が対応
- 9/25-29 イコモス専門分科委員会 Wood Committee の Annual Meeting(ロシア・ケネゼロ)に、伊藤延男・渡邊保弘・本田智子の3氏が出席
- 9/30 [JAPAN ICOMOS INFORMATION]誌第5期5号を発行、会員諸氏及び関係機関に送付
- 10/1 日本イコモス国内委員会第5小委員会 (Ancient Plovdiv Project) 第8回会議を開催(文化財保存計画協会会議室)
- 10/5 日本イコモス国内委員会 研究会・見学会「飛鳥時代の庭」開催(研究発表は奈良県立万葉文化館、見学は酒船石遺跡庭園遺構・飛鳥京跡苑池遺構)
- 10/12 日本イコモス国内委員会2002年第3回拡大理事会開催(東京文化会館)
- 10/16 第13回ICOMOS総会(マドリッド)のvoting list 及び proxies を作成し本部に送付
- 10/18 第3回拡大理事会を欠席された役員諸氏に拡大理事会(10/12開催)の議案書を送付
- 10/18 イコモス専門分科委員会 Underwater Cultural Heritage の委員長 Marc-Andre Bemier氏より、荒木伸介氏が国際委員(voting member)に選ばれたとのメールを受領
- 10/21 ドイツ大使館より「第13回ICOMOS総会における選挙にPetzet氏が立候補する件で、日本イコモスの委員長及び事務局長と面談したい」、と文化部長アメルンク氏が来局、前野委員長・矢野事務局長が対応
- 10/28 ICOMOS本部及びオーストラリアのSheridan Burke 氏(cc)に、同氏のVice President 立候補をsupport する旨のメールとFAXを送付
- 10/28 日本ユネスコ協会連盟より「世界遺産」の教育副教材作成協力の要請があり、同連盟の岡田氏が来局。前野委員長、矢野事務局長及び第4小委員会主査の稲葉信子氏が対応
- 10/30 イコモス・アジア国際会議開催準備会を文化財保存計画協会会議室で開催(前野委員長・矢野事務局長・日高健一郎の3氏が出席)
- 11/6 Icomos-France の Benjamin Mouton 氏 (president) より、“Traditional Mediterranean Architecture” (13頁, CDつき)を受領
- 11/11 田原幸夫氏より、世界遺産<フランダースのベギナーズ>—甦る中世のミニチュア都市— (彰国社・田原幸夫著)を受領
- 11/18 日本ユネスコ協会連盟よりの[世界遺産]教育副教材作成協力の件で、第2回の会合を開催 (文化財保存計画協会会議室)

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Trustees	理事	稲葉 信子	Nobuko INABA
		上野 邦一	Kunikazu UENO
		岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
		杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		田原 幸夫	Yukio TAHARA
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		藤本 強	Tsuyoshi FUJIMOTO
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		町田 章	Akira MACHIDA
		松本 修自	Shuji MATSUMOTO
		宮川 朝一	Asaichi MIYAKAWA
		宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
		矢野 和之	Kazuyuki YANO
		山田 幸正	Yukimasa YAMADA
吉田 綱市	Koichi YOSHIDA		
Auditors	監事	石澤 良昭	Yoshiaki ISHIZAWA
		木原 啓吉	Keikichi KIHARA
Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
		伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		羽生 修二	Shuji HANYU
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
		石井 昭	Akira ISHII

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVE TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Committee	西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
Specialized Committee on:		
Archaeological Management	小野 昭	Akira ONO
Structures	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
	日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
Historic Towns and Villages	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
Underwater Cultural Heritage	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Training	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
	稲葉 信子	Nobuko INABA
Historic Gardens and Sites	工楽 善通	Yoshimichi KURAKU
	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
Vernacular Architecture	本中 眞	Makoto MOTONAKA
	前野 まさる	Masaru MAENO
Wood	大河 直躬	Naomi OKAWA
	村上 裕道	Yasumichi MURAKAMI
	伊藤 延男	Nobuo ITO
Earthen Structures	松本 修自	Shuji MATSUMOTO
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Cultural Tourism	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
Legal Issues	石井 昭	Akira ISHII
Photogrammetry	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Cultural Corridors	西村 康	Yasushi NISHIMURA
Stone	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
Risk Preparedness	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
	益田 兼房	Kanefusa MASUDA



JAPAN ICOMOS INFORMATION

Vol.5, No.6 15 DECEMBER 2002

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 山田幸正

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-9-6 アストウルビル3階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax .03-5728-1621 e-mail jpicomos@kb4.so-net.ne.jp

JAPAN-ICOMOS OFFICE

c/o Planning Institute for the Conservation of Cultural Properties

Asouturu Bldg.,1-9-6 Ebisu-nishi Shibuyaku Tokyo 150-0021, Japan

Tel & Fax .+81-3-5728-1621 e-mail jpicomos@kb4.so-net.ne.jp